

リズムの構成と動きの関係について

The Relationship between Rhythm and Movement

茨木 金吾

Kingo Ibaraki

緒 言

近畿大学豊岡短期大学論集第1号と近畿大学豊岡短期大学紀要第31号において、基本となる4種(Walk、Run、Skip、Gallop)の動きとリズムの構成の関係から、それら4種の動きはそのリズムの構成のされ方がどのような構成のされ方で成り立っているリズムであると捉えられる傾向にあるのかを調査した。その結果、Walkは拍節を単純拍子で刻むリズムであり、Runは拍節内が二連符、三連符、四連符と連符により均等に分割されたリズムで構成されたものであると捉え、Skipは前音が長く、後音が短い音符の組み合わせにより連続した拍節で構成されているリズムであり、Gallopは基本のリズムよりもむしろSkipのリズムと同一のリズムで動作できるものであると捉える傾向にあること^{1) 2)}が考察できた。

本稿ではさらなる動きの傾向を探るために拍子記号の認識のされ方に注目し、1拍単位となる音符の種類とそれを基に構成されたリズムパターンが動きを引き出すためのリズムとしていかに捉えられる傾向にあるのかを無作為に24種類のリズムを調査対象リズムとして設定し、それらリズムがいかなる動きの適合リズムとして認識されるものなのか、そのリズムの構成のされ方と動きの関係について探ったので報告する。

調査方法

- 調査日 平成19年7月30日、8月2日、8月10日、8月20日、8月22日
- 調査対象 近畿大学豊岡短期大学通信教育部 こども学科1・2年生 171名
- 調査方法 表1の調査リズム表が示すように拍節の基となる1拍単位の音符を設定し、その拍節内に展開されるリズムを無作為に24種作成し、それらリズムがテンポ域M.M.(基準となる音符)=120において4種の動き(Walk、Run、Gallop、Skip)としていかに認識されるものであるのかを調査し、リズムの構成のされ方と動きとの間にいかなる傾向があるのかを探究した。その調査の方法としては拍節を構成する基準となる音符がM.M.(基準となる音符)=120であることを伝え、それらリズムの横にどの動きに適応できるのかその適合する動きを記入させた。

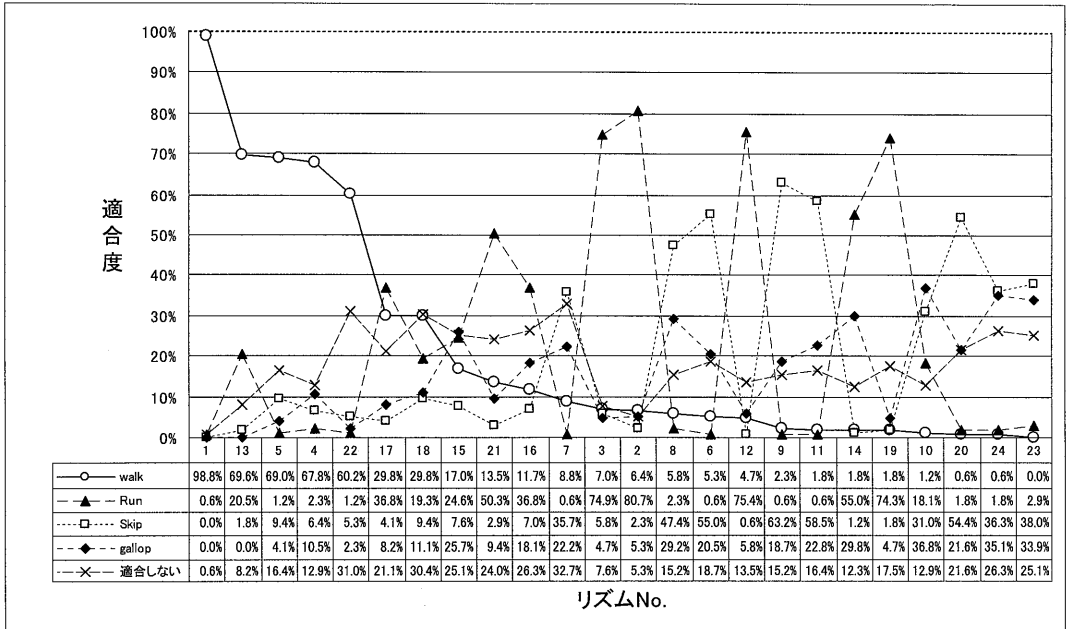


図1-1 リズムと動きの適合の傾向 (Walk)

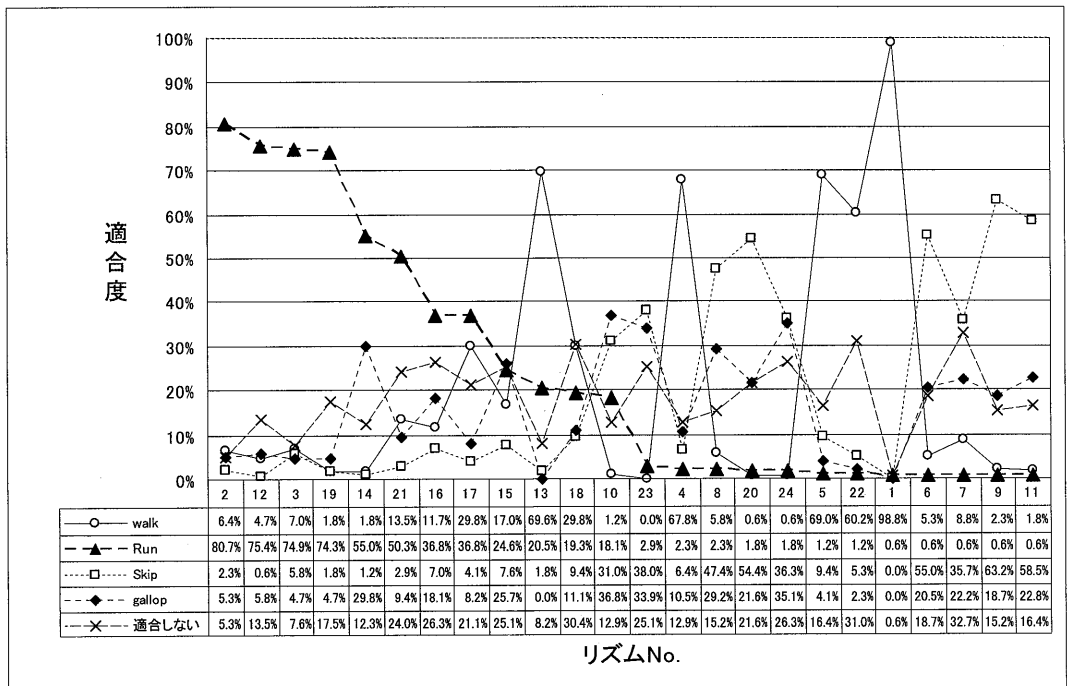


図1-2 リズムと動きの適合の傾向 (Run)

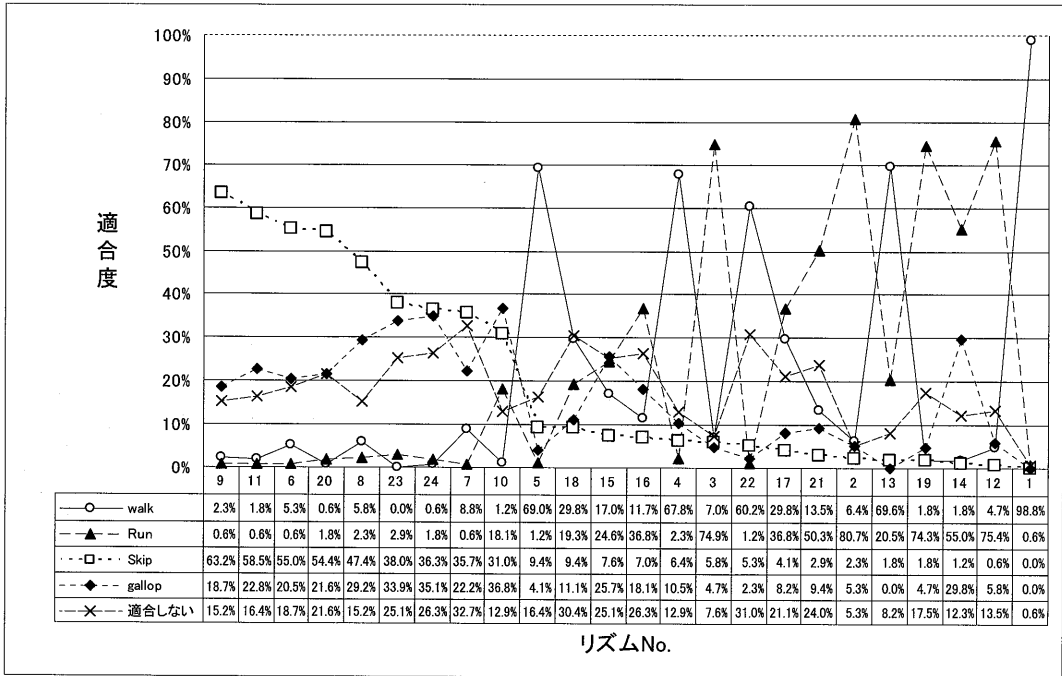


図1-3 リズムと動きの適合の傾向 (Skip)

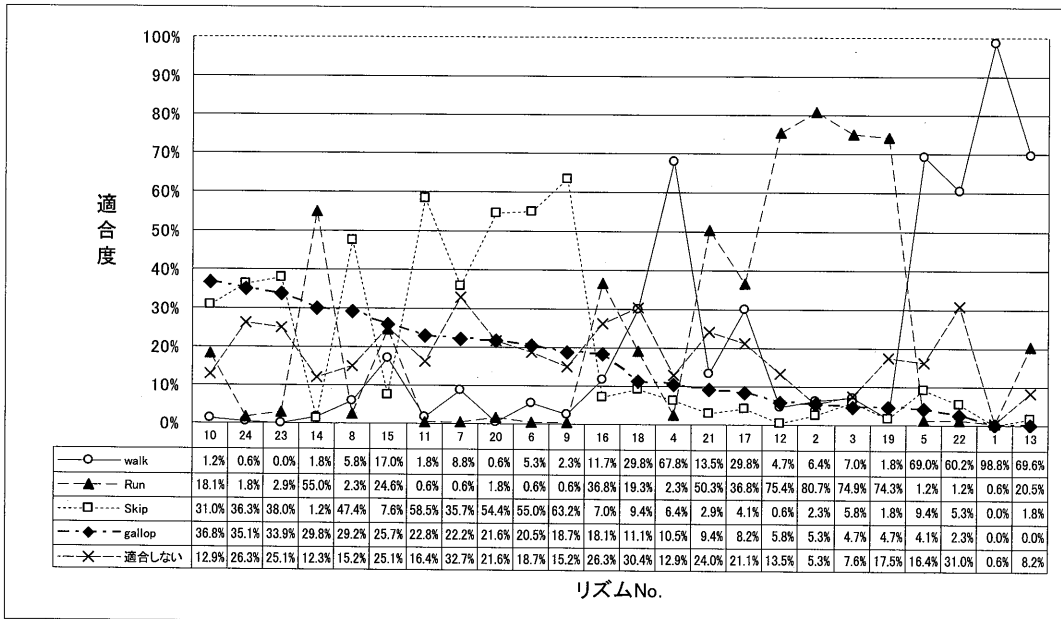


図1-4 リズムと動きの適合の傾向 (Gallop)

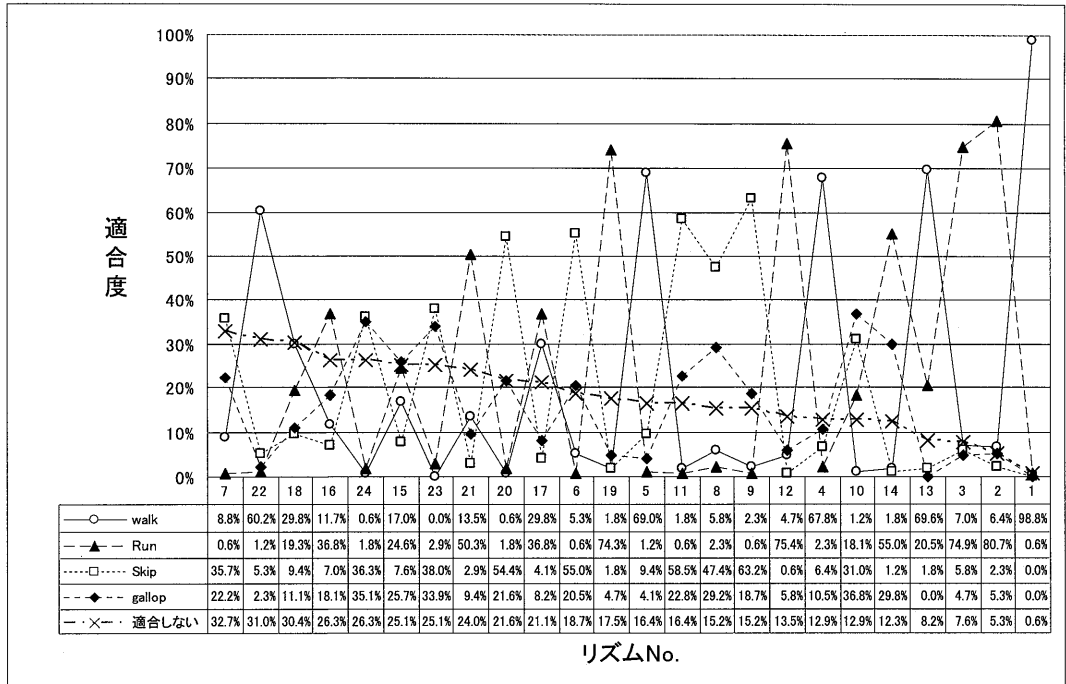


図1-5 リズムと動きの適合の傾向 (適合しない)

それら表及び図に示された調査結果から Walk、Run、Skip、Gallop の4種の動きと1拍単位となる音符の種類とそれを基に構成されたリズムパターンが如何なる適合の傾向にあるのか推察することができる。

Walk についてはリズムNo.1、No.13、No.5、No.4、No.22の5種のリズムが60%以上と高い適合度を示しており、中でもリズムNo.1については98.8%がWalkに適合したリズムであると捉えている。このことより二拍子系(四拍子も含む)、三拍子系のリズムにおいても拍節を基準となる音符により単純拍子で構成されているリズムをWalk適合のリズムと認識していることがうかがえる。ただリズムNo.13については基準となる音符で構成された拍単位のリズムではなく、拍を2分割されたリズムをWalkに適合したリズムと捉え、リズムNo.3、No.12、No.16、No.17、No.18については基準となる音符で拍節を刻んでいるにもかかわらず、低い適合度を示している。特にリズムNo.12にいたっては4.7%と低く、むしろRunの動きに適合と捉えていることがわかる。これらのことから動きに適合するリズムとして基準となる音符により単純拍子で刻まれるリズムがWalkに適合したものであると理解しているが、基準となる音符そのものの単位が理解できておらず、短音符で表記されたものは全て速い音符であると認識されていることからくるものであることがわかる。

Run についてはリズムNo.2、No.12、No.3、No.19の4種のリズムが60%の高い適合度を示している。これらのリズムの構成を見ると1拍単位を単純拍子で均等に分割されたリズムをRunに適

合したリズムであると認識していることがわかる。ただ、リズムNo.12にしてもリズムNo.3にしても基準となる音符で構成されたリズム群であり、Walk 同様、短音符で表記されたものは全て速い音符であると認識されていることからくるものであることがわかる。

Skip についてはリズムNo.9のみが63.2%であり、適合するリズムであると認識するそのリズムパターンがはっきりとつかめていないことがわかる。しかし、上位陣であるリズムNo.11、No.6、No.20、No.8をみると長音符と短音符の組み合わせにより構成されたリズムを Skip に適合したリズムであると捉える傾向にあることから確定はできないものの、Skip のリズムは長音符と短音符の組み合わせで拍節を構成するリズムであると理解していることが推察できる。

Gallop についてはどのリズムNo.とも60%以上の高い適合度は示しておらず、Gallop の基本的なリズムが認識されにくい傾向にあることがわかる。中でも上位のリズムNo.10、No.24、No.23、No.14、No.8、No.15のリズムパターンを見ると本来の Gallop のリズムパターンであるNo.14、No.15が含まれていることから拍節を3分割された音符の連続で構成されたリズムであると認識はされる傾向にあることはわかる。ただ、Skip との区別はつかず、Skip も Gallop も長音符と短音符の組み合わせで構成されたリズムで動けると判断していることがわかる。

また、4種の動き、いずれにも適合しないと答えたものは、その数値が低いもののリズムNo.7、No.22、No.18が30%台を示している。それらリズムのパターンを見ると三拍子系であることがわかる。二拍子系に比べ三拍子系のリズムは対象となる4種のリズムに対応しにくいと判断していることがわかる。

さらに、それぞれの動きに対してのリズムの適合度は何ら関連なく、動きにあったリズムが存在していることは認識できていると判断できた。

要 約

さらなる動きの傾向を探るために、拍子記号の認識のされ方に注目し、1拍単位となる音符の種類とそれを基に構成されたリズムパターンが動きを引き出すためのリズムとしていかに捉えられる傾向にあるのかを無作為に24種類のリズムを調査対象リズムとして設定し、それらリズムがいかなる動きの適合リズムとして認識されるものなのか、そのリズムの構成のされ方と動きの関係について探った。

その結果、リズムの構成のされ方と4種の動き (Walk、Run、Skip、Gallop) はその基本となる音符がテンポ域 M.M. (基準となる音符)=120に設定されていても、その音符の持つ長短のイメージに影響され、一拍単位の音符の長さを正確に捉えられないこと、Walk は拍節を基本となる音符で刻む単純拍子で二拍子系、三拍子系に関係なくその適合となるリズムが捉えられていること、Run については1拍単位を単純拍子で均等に分割されたリズムと捉えているが、音符のイメージの影響を受けやすいこと、Skip、Gallop についてはその適合リズムの区別はつけにくく、長音符と短音符の組み合わせで構成されたリズムで動けると理解していること、Walk、Run のリズムは適合

するリズムの特性をつかみやすいが、Skip、Gallop にいたってはかなりつかみにくいものであること、三拍子系リズムは二拍子系リズムに比べ、動きにあったリズムと判断されにくい傾向にあることがそれぞれわかった。そのことは近畿大学豊岡短期大学論集第1号と近畿大学豊岡短期大学紀要第31号についてと同様の調査結果であり、今回、新たに音符の長短の固定されたイメージがその動きの適合を判断する上で大きく影響していることが追加要因として加えられた。

引用文献

- 1) 茨木金吾：リズムの構成と動きについて、近畿大学豊岡短期大学紀要、31, 1-8, 2003
- 2) 茨木金吾：リズムの構成と動きについて 第2報、近畿大学豊岡短期大学論集、1, 23-30, 2004

参考文献

- 1) 茨木金吾：近畿大学豊岡女子短期大学通信教育部学生のリズム感覚に対する調査、近畿大学豊岡短期大学紀要、14, 49-58, 1986
- 2) 茨木金吾：近畿大学豊岡短期大学通信教育部学生のリズム感覚に対する調査 その2、近畿大学豊岡短期大学紀要、17, 79-96, 1989
- 3) 茨木金吾：近畿大学豊岡短期大学通信教育部学生のリズム感覚に対する調査 その3、近畿大学豊岡短期大学紀要、20, 91-99, 1992
- 4) 茨木金吾：動きをイメージし易いリズムの傾向について、近畿大学豊岡短期大学紀要、27, 57-62, 1999
- 5) 茨木金吾：動きをイメージし易いリズムの傾向について 第2報、近畿大学豊岡短期大学紀要、28, 1-8, 2000
- 6) 茨木金吾：動きをイメージし易いリズムの傾向について 第3報、近畿大学豊岡短期大学紀要、29, 59-66, 2001
- 7) 茨木金吾：動きをイメージし易いリズムの傾向について 第4報、近畿大学豊岡短期大学紀要、30, 39-48, 2002
- 8) 黒沢隆朝：楽典、11-227, 音楽之友社（東京）、1966
- 9) Marcel BITSCH, Jean-Paul HOLSTEIN, 池内友次郎訳：音楽覚え書き帖、1-80, 音楽之友社（東京）、1968
- 10) 三瓶政一郎：リズムと指導、3-90, 音楽之友社（東京）、1968
- 11) 相原宗和：音楽の理論、9-138, 音楽之友社（東京）、1978
- 12) 藤原俊輔：音楽Ⅰ 音楽の基礎、1-309, 近畿大学豊岡短期大学通信教育部（兵庫）、1999
- 13) 今成睦夫：小学校の器楽合奏 ゆかいなリズム打楽器メソッド、1-75, (株)ATN（東京）、1995
- 14) 山浦菊子・徳田泰伸：保育におけるムーブメント、1-140, (株)みらい（岐阜）、1998

